

帰国した青年海外協力隊経験者ら3名 宮城県へ活動報告 アジア、アフリカ、大洋州で日本の技術伝える

国際協力機構(JICA)から青年海外協力隊として2年間派遣され、本年6月から10月に帰国した3名が活動報告のため宮城県を表敬訪問します。アジア、アフリカ、大洋州の開発途上国の国づくりのために日本の技術を伝えてきた青年海外協力隊への取材・報道、個別インタビューをぜひご検討ください。

表敬する3名の派遣国、職種、活動内容、帰国後の抱負などは裏面をご参照ください。

《表敬訪問日程》

(敬称略)

表敬先	日時・場所	表敬者
宮城県 経済商工観光部長 鈴木 秀人	12月20日(金) 10:30-11:00 県庁11階 第二会議室	三田村 徳、佐々木 優、 佐藤 百香

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 東北 市民参加協力課(担当:湯川、前田)

TEL:022-223-4772 FAX:022-227-3090

E-Mail:jicathic-jv@jica.go.jp

※このプレスリリースは、宮城県庁記者クラブで配布しています。

《活動内容と帰国後の抱負など》 ※年齢は、表敬日現在のものです。

◆三田村 徳さん（みたむら あきら・32歳・仙台市）

派遣国:フィジー 職種:理学療法士 配属先:国立リハビリテーション病院

2017年6月から2019年6月まで国立リハビリテーション病院にて、院内・外来患者へのリハビリテーションを実施しました。また、フィジー全土を巡回し、地域リハビリテーションについてのワークショップ開催、患者やスタッフを対象にした生活習慣予防対策のための運動指導などを行いました。当初は現地の人の協力を得ることに苦慮しましたが、現地の人たちが大切にしているティータイムに参加したことにより、コミュニティのなかの一員として認められ、活動にも協力してもらえるようになりました。

近年、在日・訪日外国人数の増加にともない、医療を提供する機会も増え、外国人支援のニーズが高まっています。そこで私は、グローバル化、国際協力、多文化共生の推進を図ることを目的に、宮城県理学療法士協会にて国際事業推進委員会を立ち上げ、宮城県の活性化に携わっていきたくと考えています。

◆佐々木 優さん（ささき ゆう・36歳・大崎市）

派遣国:スリランカ 職種:高齢者介護 配属先:セッセワナ高齢者施設

2017年7月から2019年6月まで高齢者施設で生活の質の向上、健康維持活動(体操)、介護技術の移転、介護に関するワークショップを開催しました。また、地域の老人会を巡回し、健康維持の啓発、栄養指導や介護を勉強している学生への指導も行いました。日本とは違う環境に、実際に自分自身が入って気づくことがたくさんありました。その中で高齢者施設の環境で改善できることを探し、現地のスタッフに助言・指導などを行いました。

スリランカでの活動を通し、技能実習生や留学生など日本へ介護を学びに来ている外国人に、日本の介護技術を伝えたいと思うようになりました。ボランティア経験を生かし、日本人と外国人のコミュニケーションを円滑にできるよう手助けなど行いたいと考えています。

◆佐藤 百香さん（さとう ももか・27歳・東松島市）

派遣国:ベナン 職種:コミュニティ開発 配属先:クッシン区保健センター

2017年10月から2019年10月までクッシン区の保健センターに配属され、児童の体重測定の実施や5S活動、村での啓発活動を保健センタースタッフや地域保健ボランティア等と協力して行いました。配属当初は、保健センターで赤ちゃんの定期的な体重測定が行われておらず、村人の関心も薄い様子でした。しかし、活動を継続するなかで村の女性が活動に関心を示すようになり、赤ちゃんの体重測定をしてほしいと依頼してくれるようになりました。

日本とは文化の異なるベナンの人々と2年間共に過ごす中で、相手を通して自己分析し、自己理解がより深まったように感じています。その自分の性質を生かした方法での社会還元をしていきます。

以上